

承認番号	2020-059
研究課題名	経皮経肝穿刺後のトラクト塞栓に対するゲル状塞栓物質の有用性についての後方視的研究
研究の意義・目的	経皮経肝手技は皮膚を針で穿刺して肝臓を貫き、門脈などの血管や胆管に到達させて、そこからカテーテル治療や生検を行うための手技のことを指します。この手技は当科では静脈瘤に対する経皮経肝静脈瘤硬化療法（PTS）や胆管癌術前に行う経皮経肝門脈塞栓術（PTPE）で用いられています。治療が終了し、肝臓に刺さっていた管や針を抜去した後に形成される肝臓の穿刺経路（トラクト）は手で直接圧迫して止血することができないので出血（とくに肝臓外への腹腔内出血）の危険性があり、その経路を塞ぐ必要があります。本研究ではゼラチンスポンジを用いたゲル状の塞栓物質を考案し、その有用性を評価します。
研究を行う期間	2014年1月1日～2022年12月31日
研究対象者の範囲	2014年1月1日～倫理委員会承認日までの期間に大阪市立大学医学部附属病院放射線科で、経皮経肝穿刺手技後にトラクト塞栓手技を施行された患者様が対象です。
お願いする内容	大阪市立大学医学部附属病院のみで研究いたします。
	血液検査データやCT画像、血管造影画像、診療録等を使用させていただきます。
頂いた試料・情報の提供方法	頂いた資料や情報は提供しません。
頂いた試料・情報の管理について責任者	研究責任者 山本 晃 大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学
この研究を行っている施設（共同研究機関）	大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学
代表施設のURL	https://ocu-radiology.jp/
研究の成果を公表する方法	匿名化された個人が特定されない状況で、日本医学放射線学会、日本IVR学会での発表や学術論文の掲載をいたします。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。また、研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 講師 山本 晃 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 TEL: 06-6645-3831/ FAX: 06-6646-6655 E-MAIL: radiology@med.osaka-cu.ac.jp